

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名 称 「乳児を科学的に観る－保育実践政策学のために－」
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：東京大学大学院教育学研究科
後援 日本保育学会、日本赤ちゃん学会、日本発達心理学会、日本教育学関連学
協会
- 3 開催日時 平成 27 年 1 月 11 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分
- 4 開催場所 日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨
教育学分野の学術の展望にもとづき提出した大型重点研究計画「乳児発達保育実践政策学研究教育推進拠点の形成」にもとづき、乳児の発達基礎科学の最前線の知見を一般の市民に提供するとともに、その知見と現在の日本が置かれている保育実践ならびに現在の保育政策との関連と課題を専門的知識を元に議論をすることをねらいとする。現在の乳児がおかれている保育の状況に対して、学術知見からよりよいあり方、そのための政策のあり方についての問題提起と対話のための企画である。
- 6 参加人数
講 演 者 等 12 名
その他の参加者 264 名
合計 276 名
- 7 特記事項：
 - （1）メディアによる取材・報道として、NHK、読売新聞、日本教育新聞からの取材等があった。また行政関係者として文部科学省からも参加があった。
 - （2）協働団体である日本保育学会、日本発達心理学会、日本赤ちゃん学会では盛況のうちにおこなわれたことの報告が各理事会でなされている。そしてその後も一連の内容として、学術会議でのサイエンスカフェでの赤ちゃん学フォーラムや保育実践政策学シンポジウムが連続講座として、2 月 22 日、3 月 17 日に東京大学の方で実施される予定である。